

午前11時零分再開

○議長（手嶋源五君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、6番中島秀樹議員の質問を許可します。6番中島秀樹議員。

（6番中島秀樹君登壇）

○6番（中島秀樹君） 皆様、こんにちは。6番議員の中島秀樹でございます。私は、開かれた議会、責任ある議会を目指しております。きょうは活発な議論ができますように、一生懸命に一般質問をしたいと思っております。

あとは質問席から質問をさせていただきます。

（6番中島秀樹君降壇）

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） では、通告書に従い質問をさせていただきます。

まず1番目に、朝倉市の発展のために定住人口をふやすことが必要であるという質問をさせていただきます。

私は、息子がおります。一人息子で当然長男です。私の息子は今、受験生で、東京で大学を受験したいというふうに言って、一生懸命勉強しております。多分就職も東京でしたいのではないかなというふうに思っております。

ただ、私は、一抹の不安があります。息子が将来、甘木、朝倉に帰ってきてくれないのではないかなというふうに思っております。

そういった意味では、東京に出さない方がいいんじゃないか、おまえは長男だから墓の守りをしないといけないから東京に出ないで地元の大学に行きなさいと言わないといけないのではないかなというふうにも思っております。何か魅力あるものを見せたら、そちらにとられるような気がしております。

私は、この質問をするに当たりまして、ある同級生に電話をかけました。彼は東京で働いております。お母さんが少し痴呆が出て、こちらで妹さんと2人で暮らしております。家も新しい家を建てております。そういった彼から、当然彼は、将来朝倉に帰ってくるでしょうから、東京にいる彼から見て、朝倉はどういったところなんだろうというふうに、意見を聞こうというふうに思いました。質問をするに当たりまして、参考になると思って意見を聞きました。

すると、彼は、自分は朝倉に帰ってくるつもりはないというふうに言われました。博多ぐらいだったら住んでもいいと思うけれども、朝倉には魅力がないから、自分は帰ってこないというふうに言われました。

私はびっくりいたしました。家も建ててる、痴呆のお母さんもいる、きっとお墓もあるんでしょう、だけれども帰ってきたくないというふうに言われました。1つは、奥さんがこちらの方ではないという事情もあるんでしょうけれども、やはり私は息子に対する不安が少しまたこの同級生の話を聞いてもたげてきました。

私は、朝倉市は魅力がある町かということをもまず考えてみたいというふうに思っております。私は、東京生まれの東京育ちです。年に盆正月、その当時は甘木でしたけれども、甘木の桑原に帰ってきておりました。非常に自然があつてそれはそれは楽しみでした。夏の強烈な緑の匂いと非常な熱気、これを鮮明に覚えております。冬は底冷えがする寒さ、そして雪が降って雪だるまをつくるのが大変楽しみでありました。

私は、朝倉市は魅力があるというふうに考えております。でもそれは本当なのでしょうか。私は、まずは朝倉市は魅力があるまちなのかどうか、それをお尋ねしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） 朝倉市は魅力ある町かという御質問でございます。私たちが議員同様に、朝倉市にはさまざまな魅力があると思っております。

まず、都市部には見られない豊かな自然環境や歴史、文化もございます。秋月や三連水車、原鶴温泉などの観光地もございますし、数多くの種類の果物も野菜もとれます。地理的には、福岡都市圏や久留米市などから距離の近さに加えまして、甘木鉄道もありますし、西日本鉄道甘木線の始着駅と大分自動車道、3つのインターチェンジを有しております。

大都市であります福岡市へ九州自動車道と福岡都市高速道路が接続しておりますので、その利便性については、特に福岡市は都市圏であると思っております。

もちろん遊びの部分といいますと、もしプロ野球のナイター観戦に行きたいと思えばヤフードームに簡単に行くこともできます。また、県立美術館とか博多座に行こうと思えば、そういったところにも、容易に行くことができます。もう既に御承知のとおり、空港や博多駅などにも1時間以内でつくことができますし、大都市の持つ機能を十分満喫することができると思っております。まさに田舎のよさと大都市の持つ機能を両方味わうことができる、魅力的な地域だと考えております。また、この豊かな自然を持つ市の面積が、福岡県内でも4番目が広さを持っております。利活用の仕方によっては、十分な魅力だと考えております。

このように、たくさんある地域資源を積極的に活用いたしまして、魅力をさらに高めていく必要があると考えております。

市長のマニフェストに掲げられた事業を市の重点施策に位置づけまして、積極的に実施することによりまして、親と子と孫と一緒に暮らす朝倉市づくりに推進しております。これらの事業の総合的な効果によりまして、人口減少を抑えまして、近年増加している農村を試行する人たちの情報発信など、定住者の増加を図っていきたくと考えております。

既に、子育ての面では、修学前の子どもの医療費無料化や小学生の入院費の補助、また、住環境では上下水道の整備促進、雇用の面では市長が先頭に立った、一人でも雇用増の取り組み、3つのインターチェンジを活用した企業誘致活動など積極的に行っておりますし、市街地活性化事業、プレミアム商品券の発行への助成も行っております。農業の分野では、朝倉市夢と緑を育む食料・農業・農村基本条例の制定など、定住人口の増加を図るための

施策を着実にやっているところでございます。

また、行政だけの考えでなく、地域コミュニティを中心とした市民の皆さんとの意見交換を実施しながらその英知を結集し、取り組みを進めていく必要があると感じております。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 今、朝倉市の魅力をいくつかお話いただきました。私は、何人かの部長に聞いてみたいと思うんですけども、農林商工部長、本当に朝倉市は魅力があるというふうにお考えでしょうか。また、どういったところが魅力だというのを思っていますでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 農林商工部長。

○農林商工部長（牟田芳高君） ただいまの総務部長の答弁でもございましたように、福岡都市圏に非常にアクセスがよろしいと、そしてまた、県下4番目の広大な面積を持ち、主な産業が農業であると。

で、先ほどの回答中にもございましたように、やはり、このような自然を愛するといいますですか、希望するような若者が非常にふえておる、こういう現状にもございます。

また、産業的にも地域産業的にも、こういう立地のよさ、こういったものを利用、活用いたしまして、積極的に企業誘致をし、定住人口の増加に持っていかなきゃならない、活力をさらにましていかなければならない、そういうふうに思っております。

このような状況から見ると、非常に活力のある、魅力のある地域だなというふうに考えておるところでございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 済みません、突然御指名いたしましてありがとうございます。

私も朝倉市の自然というのは認めます。でもそれは単なる田舎なんじゃないでしょうか。本当に豊かな自然、日本の中に単なるなる田舎というものは腐るほどあります。私はそういった単なる田舎で朝倉市の自然というのはアピールできてないんじゃないかというふうに思っておりますが、その点についていかがお考えでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 答弁はどなたですか、答弁。市長。

○市長（森田俊介君） 今言われるですね、一面そういうところはあるかと思えます。今はそうでもないんですが、何年前、何十年ぐらい前になるかな、10年、20年ぐらい前になりますと、いわゆる地方の田舎と言われる地域の自治体には、水と緑というキャッチフレーズがほとんどついていました。そういう面では、中島議員おっしゃることも確かにそういうことが言えるのです。

ただ、その中で、私どもが、同じような地域にまして、魅力をつけていくと、つくっていくということが非常に大事なことなんだろうと。それは、自然とあわせて、そこに土台とした風土における歴史ですとか、文化ですとか、そういったものは田舎でも違います。

同じ田舎の地方でもそれぞれの文化とか歴史等持っているんです。そのことをより自然とあわせてアピールしていくことが大事なんだろうというふうに思います。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 朝倉市議会では活発な議会討議を目指しております。私は議場でも活発な議会討議が行われるべきというふうに考えております。そういった意味では、少しシナリオと違ったようなほうに話が行くかもしれないけれども、御容赦いただきたいというふうに思っております。

歴史文化と自然の抱き合わせという言葉が、今市長のほうから出ました。歴史と文化を抱き合わせて朝倉市の魅力をアピールしていく、これは具体的にはどういったことになるんでしょうか、多分歴史あるまちづくりということによってやっていっていると思うんですけども、こういった具体的な情報発信というのはどういうふうに出されているんでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 教育部長。

○教育部長（藤本具彦君） 今、議員が申されました、歴史、また豊かな自然等を含めたまちづくりという情報発信ということでございますが、まあ教育委員会といたしましては、そのまちづくり全般は申し上げることはできませんけれども、一つは、歴史文化から申し上げますと、議員御承知のように、古来からはもう縄文遺跡等も発掘された、ジュース工場跡のところで縄文遺跡が発掘されたというようなこともございますし、近年では工場団地跡の平塚川添遺跡、それらを有しておりますし600年あたりになりますと斉明天皇のゆかりのあります朝倉橋広庭宮、朝倉宮というふうな伝承ですけれども、そういった歴史的なものを持っているところでございます。

また、寺社についても、普門院とか南淋寺とか、相当県の文化財にもなっておりますし、これらを活用して、やはり文化財的な部分が、ただ単に文化財だけじゃなくして観光拠点とか四季折々の自然を交えた集会とか、そういった形の中で総合的に、点ではなくて点が線になると、でその線がただ一つの線じゃなくして、四季に応じた線という形でなるように、文化財等は寄与できればなというふうに思っているとでございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 歴史文化財、それから川添遺跡、それから朝倉宮、そういった遺跡があるということですが、私はそういったの遺跡が決して活用されているというふうには思いません。川添遺跡に行けば非常にお寒い限りでございますし、朝倉宮についても、非常にアピールが足りないのではないかなと思っております。やり方ひとつによっては、朝倉の重要な財産になるというふうに思っております。

そういった意味で、よく活用するという言葉が出ると思うんですが、活用するというのは行政の立場ではどういったことをお考えになっているんでしょうか。よく3つのインターを活用するとかいう言葉を使いますが、活用するって一体何なのでしょう。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（埤本 潔君） 個別の、それぞれにおいて活用の仕方というのは違ってますので、活用とは何かと、何て言いますか、直接的に一つの定義で答えるというのは非常に難しいんですけども、例えば、インターチェンジの問題でしたら、恐らく皆さん認識してあるのは、移動時間ですね、というようなとらえ方だろうと思います。

ですから、先ほど通勤なりというような話がありましたけれども、企業誘致におきましては物流ですね、で、インターが近いということは物の流れがより早く行われると、そのことによって朝倉市に対する企業の誘致なりに貢献するというようなことになりますので、そういった面で活用するということがあると思います。

で、文化的な遺跡等につきましてはですね、交流人口をふやすための一つの素材としてと、ですから、そこのやはり活用が十分ではないというようなお話だろうと思いますが、例えば、観光面でやっていくのか、あるいはその学習面でやっていくのか、さまざまやり方があると思いますが、活用というのは、例えばそういったことだというふうに考えております。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 私は、活用をしているということは非常に漠然とした質問で申しわけないんですが、やはり、こういうことをしてます、こういうことをしてますという、やっぱり具体的な事例が出てこない、私はだめだというふうに思うんですね。

では、そういった意味で、朝倉市の、例えば交通のアクセスが非常にいいということが上がってますけれども、それは高速があるからだと思うんですけども、それに対して行政のほうで何かしてありますでしょうか。

例えば朝倉は非常にアクセスがいいですから、もっと住みやすいまちですよとか、高速のインター周辺にはわりかし車がとめやすい環境にありますよとか、そういったことを、何か朝倉市としてアクセスの面、それから交通手段で、非常に交通の便がいいということでおっしゃってますけど、朝倉市として何かされてますでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 私は、各課の部長さんとか課長さんたちに、ここで事前に話したことを読み上げるだけではなくて、活発な議論ができればというふうに思っております。そういった意味では、何かこの議場でつくり上げるような形で御意見をお聞かせいただけたらというふうに思っております。

○議長（手嶋源五君） 公共交通推進室長。

○公共交通推進室長（青木 茂君） 交通のアクセスのPRということでございますけれども、現在、公共交通推進室のほうでは、それぞれの地域を網羅するという交通システムを構築中ございまして、まだまだ市外に対するPRというのは非常に少ないというふうに考えております。

それについては、市のホームページなり、それから県の方の対策等ともお願いをしまし

てPR等は努めていきたいというふうに考えています。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 公共交通網をつくるということですが、最終的にはどういった形が完成形なんでしょうか。そして、それはどういったゴールといたしますか、いつまでにつくる予定なんでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 公共交通推進室長。

○公共交通推進室長（青木 茂君） まず、1次のゴールは、平成25年を目途としております。その25年の中には、市内の公共交通空白といましようか、交通空白を説明いたしますと、自宅から500メートル以内にバス停があるという設定でございますけれども、そこがほぼゼロに近い数字になってくるんだろうというふうに思っております。

ただ、25年はあくまでも通過点でございます。やはり市民の方々が、自分が思ったところにいろんなところに移動できる手段を構築をしていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） そうされましたなら、朝倉市は将来的には交通空白地というのはほぼなくなるというふうに、お年寄りの方が車に乗れなくなっても、ほぼ交通手段には困らないということになるのでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 公共交通推進室長。

○公共交通推進室長（青木 茂君） そのように御理解いただいていいと思っております。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 私は、ある御高齢の方から、自分が将来、車の運転ができなくなったら、本当に生活していけるんだろうかということを、不安を訴えられました。確かに、夫婦二人暮らしで車の運転ができなくなったりして、例えば、伴侶の方が病気になって、自分一人だけになったりしたら、同じような不安を、私も、同じような立場になれば抱くのではないかなというふうに思っております。

そういった意味では交通公共機関の整備というのは、私は、かなり必要ではないかなというふうに思っております。

私はちょっと危惧をしておりますのは、地方のほうは公共交通機関ができて、まちなかの方に乗り入れはできるんですが、街中、市街地が、空洞化といえますか、商業施設がなくなりまして、歩いて買い物とかが行けなくなるような状態が生まれるのではないかなというふうに考えていますが、この点についてはどのような対策を打ってあるのでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 都市建設部長。

○都市建設部長（高良 寛君） 市街地内につきましては現在進めております甘木町のまちづくり、これによりまして、まずは住環境をできるところから整えると、そして、いわ

ゆる安全安心な都市を目指して行っております。

ただ、言われます、お年寄りの方の利便性から見ますと、特に買い物とか商業施設が郊外に移ってしまってるというふうな状況がございますので、何とかこれとあわせて、そういった、いわゆる空き店舗が1店でもなくなるような、新しい店舗が、誘致ができますような、そういった取り組みについては地元の商店街の方、あるいは商工会議所等々で今、いろいろ試行してるところでございます。以上です。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 行政でスーパーを営業するという事は、私は難しいのではないかなというふうに思っております。そうなれば、スーパーを、お店を誘致してくるか、もしくはそこまで連れていくかのどちらかしかないのではないかなというふうに考えております。

そういった意味で、商業施設の誘致という言葉が出ましたけども、これはそんなに簡単にできるものなのではないでしょうか。甘木のまちなかには、スーパーができては消え、できては消えということで、根本的な対策を打たなければ中心市街地が空洞化いたしまして、中心である人口が一番多い、甘木町の中で買い物難民が大量発生するという状態になるのではないのでしょうか。これについてはいかがお考えでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 都市建設部長。

○都市建設部長（高良 寛君） 指摘のとおりでございます、実は一番頭の痛い、難しい話であります。例えば、ごらんになったらわかるように、前パチンコ屋さんが現在空き地になっております。所有者の企業ではいろいろ使い方を考えたということも聞いております。一つの例としましては、西鉄が、今、空き地が、バス停の裏側にありますけれども、あそこはマンション計画の立地直前まで進みましたが、現在の住宅事情の関係で事業撤退ということで、現在のままになっております。それから、パチンコ屋さんの後も同じような計画をされたこともあります。

で、市街地活性化推進室を中心に、何とかあそこに民間企業が誘致できないかと、具体的にある企業を通じて地元の方と詰めた経過もございます。しかし、現実的にはそれが実を結んでいないという事実がありまして、結局、いわゆる民間の方があそこで起業をされる場合に、そこで収益性がないとやっていけないと、それから、地権者の方、地権者の方がそれを通じて何らかの生活につながる、そういった手法でない限り、そこは一般の方の、いわゆる底地を持っている方の参加が難しいということで、やむなくそのことについても断念せざるを得ないという状況がございました。

しかし、現在のままで議員が心配されている環境整備というのは進まないわけですから、何とかそれを具体化できないかということで、今、担当課を含めまして協議を進めておるところでございます。以上です。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） ちょっと買い物難民の話になってしまったんですけども、もうからないから企業が来ない、企業が来ないから人が集まらない、そしてますます企業が来ないような経済状況になっていくという、悪いパターンに入っているのではないかなというふうに思います。

そういった中で、このパターンをやはり破らないと、いつまでも甘木のまちの中は寂しいまんまというふうに思っておりますので、ぜひとも頑張ってくださいまして、企業の立地といたしますか、そういった、買い物難民の解消に向けてやっていただきたいというふうに思っております。

それと、済みません、私が3世代が豊かに暮らす地域にするために何をすべきかということで、高齢者にとって魅力は何かというふうに書かせていただいているんですけども、朝倉市の高齢者の方の意見を聞く、それを政策に生かすというような、場はあるんでしょうか。どういった仕組みで高齢者の方の意見を吸い上げているのでしょうか。

私は、地元の老人会何かに行きますと、非常に老人会というのはの元気があって、これ政治的にも力をかなり持っている組織だなというのをひしひしと感じます。そういった意味で、高齢化比率が朝倉市は高いわけですから、高齢者の意見というのは、やはり吸い上げていかないといけないというふうに思っているんですが、どういった仕組みで高齢者の意見を吸い上げていらっしゃるのか、お聞かせいただきたいと思っております。

○議長（手嶋源五君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（青笹祥子君） 高齢者の意見をどのように吸い上げているかということでございますけれども、ただいま、介護サービス課のほうで、第6期の高齢者福祉計画、それから第5期の介護保険事業計画、それを策定するために、65歳以上の高齢者の3,000人に向けたアンケートをいたしております。結果が出ておりますけれども、そういう中に皆さんの御意見をいただいて、計画をつくっていくというところでございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 私のところにもそのアンケートがまいりましたので、アンケートを見たことがあります。非常にいいアンケートだとは思いますが、私は、市の職員の方がもう少し現場に出ていかれまして、生の声を聞かれたらいいのではないかなというふうに思っております。

非常に朝倉市の老人会といたしますか、老人会組織というのはパワフルでよくまとまりがあるいい団体だというふうに思っております。これは一つの朝倉市の特徴として生かしていくべきではないかなというふうに思っております。

老人会を基本にグラウンドゴルフをして、それのおかげで健康が維持できるとか、そういった面が私は多々あるのではないかなというふうに思っておりますので、ぜひとも出ていかれまして、老人の方がどう考えているのか、これは、生の声を聞くというのはいろんな意見が出ますので、非常に骨の折れる作業だと思うんですが、やはりそういった声を聞

いて政策に生かしていくべきというふうに、私は考えます。いかがでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（青笹祥子君） おっしゃるように生の声もしっかり吸い上げたいと思いますけれども、一応この高齢者の計画をつくる時に、老人クラブの代表の方も入っていただいております。一緒に御意見をお伺いしながらつくっていくことにしておりますので、声は上がってきております。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 高齢者の方に聞かれますと、近所に、近所といいますか、同じ市内に息子たちとか娘が住んでくれてたならば、極端に言うと、公共交通機関も要らないと、やはり住んでくれているだけで非常に心強いと、買い物の心配も何もしなくてもいいというような声をよく聞きます。

そういった意味では、市長が目指す3世代が豊かに暮らせるまちづくりというのは、私は朝倉市の方向性として間違っていないというふうに思っております。

私が、イメージしておりますのは、市長のマニフェストにありますように、やはり親子と孫と一緒に、同じ屋根の下に住めれば一番ベストなんだろうけれども、そういったまちづくりがいいというふうに思っております。

そういった中で、今度は私たちの親世代ですね、が住むような政策が、やはり必要ではないかというふうに考えます。親世代が住んでいただければ高齢者に対して安心感を与えられないというふうに思っております。

そういった意味で、若者にとって、親世代にとって朝倉市というのは、魅力ある町なんだろうかと、そしてその魅力は何でしょうかお尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） 議員が言います親世代というのが、私も親ですけど、若い親、年をとった親もいます。もしよければ、もうちょっと詳しくお願いいたしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 済みません、漠然としておまして。

高齢者の方が、高齢者といえば何歳かわかりませんが、イメージ的には70歳以上ぐらいの方がいらっしゃるって、40から60ぐらいの、これぐらいの層を私は、済みません、イメージしておりました。こういった方が、済みません、もっと下げます、30代から60代ぐらいの方が、こういった方々が朝倉市に残れる、朝倉市に住んでみようと思う、そういった魅力が私は必要だと思います。

ではその朝倉市の魅力というのは何なのか、市役所の方ではどういうふうにお考えなのか、こういった政策を打ってあるのか、それを、この場でもう一度、話し合いたいと思っております。お聞かせください。

○議長（手嶋源五君） 農林商工部長。

○農林商工部長（牟田芳高君） まず、働く世代の方の魅力ということでお答え申し上げます。

やはり、子育て世代、そういう以上の方になりますと、やはり就業の機会、こういったものがないことにはこの朝倉の地に定住しようというようなことはないというふうに思いますし、また活力も生まれてこないというふうに思います。

そういうことから、雇用を生み出すために企業誘致に、今年度から産業政策マネジャーを配置しながら、新たな視点でアピールを、企業が進出していただけるようなアピールをやっておると、それからまた、地元企業に対しましては新たな雇用を生み出していただくために、事業所そのものが元気になっていただくと、そういうようなことから、信用保証料の低利の融資のための信用保証料の補給制度、そういったものを支援をいたしておるといようなことでございます。

また、市長みずから関東、関西の朝倉出身者の会でございます、それぞれの朝倉出身の方々を通じて、この企業の進出に対する情報の入手、こういったものを行っておりますし、また場合によっては、直接お願いに出向きたいというふうにも計画をいたしておるところでございます。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） とにかく40代から60代というのはありますが、まず、子育て面では、修学前の子どもの医療費の無料化とか入院費の補助も行いまして、また、住みやすいという関係からすれば、上下水道の整備を着々と進めているところでございます。

それで、そういったことをすることによって、若者が定住しやすい条件を満たしていきたいと考えております。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） では、まず、お尋ねいたします。

市長が、トップセールスを関西、関東でやっているということですが、市長、これ具体的な成果とか、それから具体的な反応というのはありますでしょうか。やはり、トップでセールスする以上、成果が求められるというふうに思っております。市長の感触をお伝えください。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） どこの、いわゆる自治体も、やはり朝倉市と同じような悩みなりを持っております。ですから、企業誘致等については非常に積極的であります。そのためには、何よりもやっぱり情報というのが大事です。やはり、関東とか関西で現職、現場で頑張ってる方、あるいはこちら出身の方、あるいは既に朝倉市に誘致した企業の本社等を尋ねることによって、なかなかこっちにおいて入れない情報等を入手する、そのことによって、やはりそのことをもとに、やはり朝倉として動いていくということ。その前提としてやっぱり情報収集するのが一番肝心です。

で、どちらから言うと、今までの企業誘致というのは、県に頼っていたとか、そういうもちろん県も大事に、お互いに協力してやらないかんのですけども、それだけじゃなくて、やはり朝倉市として独自にやっぱりそういった企業誘致するためには、まず情報を入手する、そこから始めようということで、昨年からそういう形で始めさせていただいております。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 私は、情報を入手するというのは確かに大切だというふうに思っております。そのためには、情報を入手するためには朝倉市のファンというのが東京、関西にやはりいなければいけないというふうに思っております。

私が思いますのは、朝倉の地元の先輩方が、できれば地元工場か何かを建ててくださいます、故郷に錦を飾って帰ってくださればいいなというふうなことを勝手に思っております。

ただ、ビジネスですので、ボランティアではできませんので、やはり、危ない橋というのはこういった時代ですから渡れないというふうに思っております。

ただ、先ほど言いましたように、朝倉市のファンというのをふやすというのは、これが絶対に必要なことだというふうに思っております。市長は、朝倉市のファンというのは、間違いなく東京、関西、それから福岡市内にふえていらっしゃるのでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） これは、私が市長になる前から、前市長の時代に、いわゆる関東、いわゆる東京と大阪に親善大使というのをつくっていただきました。関西も関東もその人たちを中心にいろんな集まりもございますし、そういったところでふえているというふうに私は思っています。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） ぜひともファンを1人でも多くふやしていただきまして、成果が出ますように、御努力いただきますようによろしく願いいたします。

それと、企業誘致ということであれば、必ず企業誘致マネジャーという方の名前が出ますが、この方は具体的にはどういった動きをしているのでしょうか。また、どういった成果といいますか、まだできたばかりですので目に見えた成果はないかもしれませんが、どういった形で動いていらっしゃるのか、何か見えるような形で御説明いただければと思っております。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田 浩君） 産業政策マネジャーの動きといいますか、そういうことですが、現在、企業進出に適しました民間の遊休地が市内に点在しておるという状況がございます。そこに、企業進出させようと今、地権者とか、不動産業者などと連絡をとりながら、土地情報ラインナップを作成をしておるところでございます。また、その上で進出

を考えてある企業に対しまして、朝倉市の魅力を強くアピールしたいというふうに考えております。

このため、これまでパンフレットと申しますのは必要最小限の情報量でございましたけれども、優秀な人材資源とか自然とか歴史などを盛り込みました、味のあるパンフレットをつくりたいというふうに考えておりますので、そこで、民間の力を引き出すという意味で産業政策マネジャーにも力になっていただきたいというふうに考えています。以上です。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 今、味のあるパンフレットというのが出ましたが、これは具体的にはどういったものなんでしょうか。そして、またいつまでにそれが完成の計画であるか、お尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田 浩君） 味のあるパンフレットという表現をいたしましたけれども、具体的には、これまでのパンフレットと申しますと、例えば、工場団地とか工場の位置とか、インフラはどういうものがあるかといったものが、大切なものだけしか載っていないということでもございましたけれども、これからは、今回考えておりますのは、先ほど言いましたように、人材資源がたくさんあるというようなこととか、市の魅力、つまり、魅力と言いますのは、そこに働く方がそこで、何ていいますか、いい家庭環境と申しますか、家庭生活を送ると申すことが重要でございますので、そういう環境には最適なところだといったところ織り込みたいというふうに考えております。

今、作成に取り組んでおるわけでございますけれども、今の計画では12月ないし1月ぐらいまでに原案をつくりまして、今年度中には形となってつくりたいというふうに考えております。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 非常に魅力あるパンフレットをぜひともつくっていただきたいと思っております。ただ、一つちょっと済みません、今お話を聞いてまして気になっていることがございまして、朝倉市の主だった企業のトップの方というのは、朝倉市に住んでいないケースが多いのではないかなというふうに思っております。本人は通勤に便利だから地元に住むのがいいだろうけども、家族までも朝倉市に住ませるのはかわいそうということで、多分、住まわしてないのではないかなと、要するに久留米あたりからとか、朝倉街道あたりから通ってきてあるケースが多いのではないかなと思っております。

こういった状況を改善しなければ、朝倉市が魅力がありますよと言っても、それは本末転倒ではないかなというふうに思っております。朝倉市のやはり住環境というのを、アピールするのであれば、そこら辺の改善というの、どうして朝倉市の主だった企業のトップが朝倉市に住まないのか、こういったのも研究していく、研究分析が必要ではないかなというふうに思います。

時間がありませんので、次の質問に移らせていただきます。

次、教育の面で、朝倉市は魅力があるかということをお尋ねしたいというふうに思っております。時間がありませんので、ちょっと項目をこちらから絞って、質問させていただきたいんですが、教育の面で朝倉市というのは魅力があるのでしょうか。私は、今、有名な大学を出てももう就職がないというふうに聞いております。そういった意味では、これから求められる人材というのは、今までの人材とは違う人材が求められるのではないかとこのように考えております。そういった中で、朝倉市の教育は魅力があるのでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 教育部長。

○教育部長（藤本具彦君） 議員お尋ねの、朝倉市教育は魅力があるのかということでございますが、まず朝倉市教育委員会といたしましては、学校教育推進に当たりまして、まず義務教育9年を通しての将来を担う人材の育成という大きな役割を担っているということから、学校教育目標というのを定めまして、失礼しました、教育要項を定めて、その中で学校教育目標を定めて取り組んでいるところでございます。

その目標と申しますのは、高い志を持って学び、生きる力を育む、魅力ある学校づくりというふうに定めまして、その中で、子どもたちの人材を、将来を担う子どもたちの人材育成に取り組んでいると、もちろんそれ以外全般的なことでの教育を推進しているということでございます。

その中で、高い志を持って学ぶ、生きる力を育むということもございますが、その中で、子どもたちにとって魅力はということについては、その中で私どもはを考えておりますのは、一つは仲間と切磋琢磨して、楽しく学べる学校であるということ、それから、取り組んでいるさまざまな活動が選択できる環境にある、また一緒に学べる、遊べる仲間たちがいる、安心して遊べる広場や空間、施設がある、また、家族や地域で必要とされる、認められる役割がある、そして先生のほうでございますけども、慕われるような先生、信頼されるような先生、子どもたちからあこがれを持たれるような先生、そういったの魅力ある先生方と一緒に、過ごしている時間帯の教育があるというようなことを通しながら、一つは、子どもさん方に、将来も含めて、自分の9年間を通しての生きる道筋と申しますか、今後のあり方と申しますか、そういったものを目指していただきたい、育みたいというような教育を目指して、やっぱり教育委員会としては教育に取り組んでいるところでございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 朝倉市の教育の特徴といたしまして、高い志と生きる力を養うという言葉をお聞かせいただきました。私もそのとおりに思っております。

そういった中で、やはりすばらしい子どもを育てるためには、教師がすばらしくないといけないというふうに私は考えております。朝倉市の教師は本当に高い志を持っていますでしょうか、生きる志す力をお持ちでしょうか。

最近、教師になりたがる人が少なくなったという話をよく聞きます。現場では教師はくたびれ果ててしまっているのではないのでしょうか。仕組みとして、素晴らしい教師を輩出していかないと、朝倉市の未来は私はないというふうに考えております。この点、いかがでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 教育部長。

○教育部長（藤本具彦君） 議員おっしゃいますように、やはり子どもたちを、将来を担う子どもたちを育成していくためには、それにふさわしい先生方が導いていただき、教えていただくということが前提であろうと思いますし、そうあらなければならないというふうに思っているところでございます。

で、私たちが、一般的に魅力ある先生というものは、先ほど申しましたように、やはり子どもたちと一緒にあって過ごしていきますので、信頼され、慕われて、また厳しい先生でもあり、また、あこがれを持つような、そういった先生という形での先生になっていただきたいと。また、自分でもそういった取り組みをしていただきたいと、自己向上を図っていただきたいということでございますが、そのを図る手段としましては、やはり研修の場というのも必要だということで、一つは教育センターへの長期派遣とか附属小学校への派遣、それから、ことしから稼働しました朝倉教育支援センターでも、教育といいますか、スキルアップの研修等も行っているところでございますので、こういった活動を通して、やはり先生方のそういった魅力アップにつながるような、指導力アップにつながるような取り組みをやっているところでございます。

また各学校におかれましては、学校経営というのをつくっていただきまして、それぞれの特徴ある学校教育に携わっておりますが、その中でも、やはり先生方の研修体制をとられております。で、公開授業なり先生方のお互いの授業交換会とかそういった形の授業の指導力アップ、スキルアップも図られておりますので、そういった取り組みの中で、今申しました魅力ある先生づくりに取り組んでいるところでございます。

まだ不十分なところもあるかもしれませんが、先生方と一緒にあって取り組みを今、進めさせていただいているところでございます。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 私は、最近の教育を見ておりましたらば、集団というのは古臭いものであると、まずは集団から個人を解放しなければならない、個人が自立をしなければならない、それから何よりも自由だ、こういった風潮が少し強すぎたのではないかなというふうに考えております。

コミュニティの中である程度の規則、道徳、こういったものをもっともっと大切にするような教育を行わないといけないのではないかなというふうに、私は個人的には考えております。

そういった中で、教育長、朝倉市の教師は本当に素晴らしいというふうに、自信を持っ

て言うことができますでしょうか、お聞かせいただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 教育長。

○教育長（宮崎成光君） 今、部長が答弁しましたように、私たちが考えています魅力ある教師を目指して、研修をしながら高めていると。

じゃあ、議員おっしゃるように理想のところまで高まったかといいますと、まだまだそこまで高まったとは来ていませんけども、学校も私たちも努力しながら高まろうとしているというふうに認識しているところでございます。

中間の段階ではございますけども、それぞれの学校で育てていただいております先生方が、研究機関とか指導機関から認められて、その機関で多くの優秀な先生方を育てるための職務に着いていくという割合も多くございますので、私は自信を持ってその方向に向かっていると思っております。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 私は、冒頭にも申し上げましたように、朝倉市というのは魅力があるというふうに考えております。ただ、きょうの答弁の中で感じますのは、やはり、もう少し迫力が欲しいというような感じがいたします。そういった意味では、朝倉市の魅力というのを、もっと自信を持って、私たちは外に発信していくべきではないでしょうか。

これからは、情報の発信力というのが求められる時代だというふうに言われております。そういった意味で、具体的にアクションを起こして、何かをやっていって、それを、魅力を発信していかないといけないというふうに考えております。

これは多分、朝倉の市議会議員についても同じことが言えるんだと思っております。朝倉市の魅力を強く発信していきまして、朝倉市の魅力を高めていく、そして、人口をふやしていくという必要が、私はあるというふうに考えております。人口がふえなければ、経済的な発展というのはなかなか今の時代、難しいと思っておりますので、何とか、定住人口をふやせるように、私自身も頑張っていきたいというふうに考えております。

時間が少なくなりましたが、2つ目の質問に移らさせていただきます。朝倉市の一体感の醸成について質問をさせていただきます。

私は、合併をいたしまして年数がたちましたけれども、朝倉市の一体感がいま一つ醸成されてはないのではないかとこのように感じております。これは心の問題だというふうに思っております。気持ちの持ちようだと思うんですが、いま一つ一体感がないのではないかなと、そういった意味で、朝倉市の魅力をこれから発信していかないといけないのに、こういった状況ではいけないというふうに考えております。

時間がありませんので市長、朝倉市の一体感について、市長はどのようにお考えになつてるか、お聞かせ願いたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 中島議員、言われるように、朝倉市が合併して5年になります。

じゃあ、今の朝倉市が旧市、町の垣根を超えて、完全に一体感があるかという、私もまだまだという認識であります。ですから、一体感と申しまして、それぞれに旧甘木市は甘木市、旧朝倉町は朝倉町、旧杷木町は杷木町、それぞれに長い歴史を持っております。そしてそれぞれの特徴を持っております。そのもの自体はやっぱり大事にしていくべきだと思います。その上で、朝倉市としての一体感をどうするか。

それは、今、ここに住んでいる大人の世代はもちろん、やっぱり行政も含めて努力していかならんのですが、それとあわせて子どもの世代、今からこの地域を担っていくだろう子どもの世代が、やはり、今からは、同じ朝倉市に住んでいる子どもなんだ、あるいは人間なんだという意識を持ってもらうためには、まず今、教育委員会のほうからも教育について答弁ございましたけれども、いわゆる学校の場において、今、今年度、わたしたちの朝倉という副読本を作成をしていただいております。

これはどういうものかと申しますと、旧甘木市時代は、わたしたちの甘木という副読本がございました。その中に、甘木市の歴史ですとか文化ですとか、それから行政のあり方、ちょっと厚過ぎるぐらいの本だったんですけども。そういったものを今度は、朝倉市の、例えば、旧甘木の学区に住んでいる生徒も旧朝倉町とか旧杷木町の歴史とか、そういったものを学ぶ、そのことによって、同じ地域の、朝倉の生まれた人間なんだという意識を持ってもらう。そのことが長い目で見れば、地元、自分のふるさとに誇りを持つことにもなるでしょうし、そういった一体感、ひとつの朝倉市の住民なんだという意識も持ってもらえるということで、そういったことに取り組んでいかなきゃならないと思います。

ですから、そういうことを含めて、今後しっかり一体感の醸成ということについては取り組んでいきたいというふうに思っていますので、議会の皆さん方も御協力をよろしくお願い申し上げたいというふうに思います。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 私も、私自身もそうなんですけれども、やはり、旧杷木町、それから旧朝倉町のことに关しますと、極端に言うと、地名を言われてもどこかわからないというところがございます。それから歴史のことにつきましても、やはりいま一つ甘木の歴史ほどは詳しくありません。

そういった意味で、学びというのは私は大事だなというふうに思っております。徹底的に現場に足を運ぶ、もしくはその地域について学ぶということが必要ではないかなというふうに思っております。

そういった意味では、私は市報とかで、各地域を紹介するとか、極端に言うと、どこどこ地区の区会長さんを紹介しますでもいいと思いますけど、こういう人が住んでいるとか、そういったページを割いて、地域を紹介していった、やはり知識の刷り込みといいますか、そういったのが必要ではないかというふうに考えております。

無関心とか無知から来る原因というのは、やはり私はあるというふうに思っております

ので、ぜひともそういった動きをしていただけないかなというふうに思っております。そして、朝倉市の、市長がおっしゃるように、特色、歴史をよく理解して、3地区で、3地区が揃って初めて朝倉市なんだというような、一体となった力を発揮できたらいいなというふうに思っております。

済みません、以上で私の質問を終わらせたいと思います。最後に済みません、一つだけ、きのう私は、NHKに10時から震災のドキュメンタリーを見ました。ある、済みません、名前がすぐ出てこないんですが、中学校の震災直後から膨大なフィルムを編集したのを見ました。中学生なのに非常に重たいものを背負って頑張っているなというふうに思って、私なんかまだまだだなというふうに思いました。

きっと、私、この子どもたちが10年ぐらいして社会に出るようになったら、私は日本の未来は明るいと思っております。彼らは私たち以上に強いというふうに思っております。きっと東北から、私は、日本を担うようなリーダーが出てくるのではないかとというふうに予感をしております。

そういった意味で、私たちはあと10年、その子どもたちのために日本をつないでいきたいなというふうに思っております。そのためには、まずは私は朝倉市で頑張ることですから、朝倉市のためにこれからも努力していきたいというふうに思っております。

以上で、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員の質問を終わりました。

午後1時まで休憩いたします。

午前11時57分休憩